

活動報告

日本遺産 「館林の里沼」を フィールドとした プロジェクト型授業 (2023年9月～2024年7月)

武蔵野大学工学部
サステナビリティ学科

橋本淳司



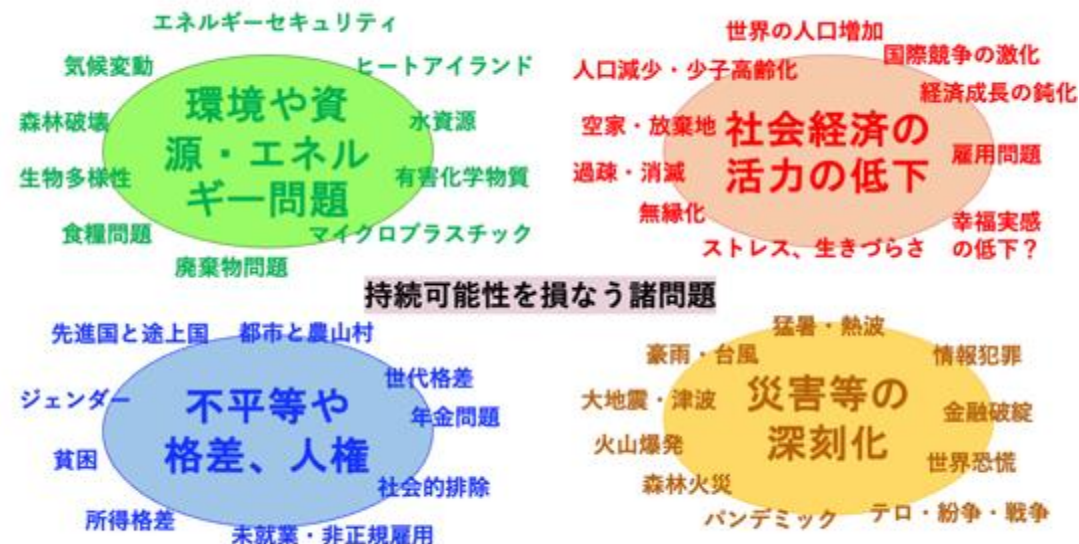
構成

- はじめに 武蔵野大学サステナビリティプロジェクトについて
- インプット期 2023年9月～2024年1月
- プロジェクト準備期 2024年4月～6月
- プロジェクトの実施 2024年6月
- プロジェクトのまとめ
- 年間評価

はじめに 武蔵野大学サステナビリティプロ ジェクトについて

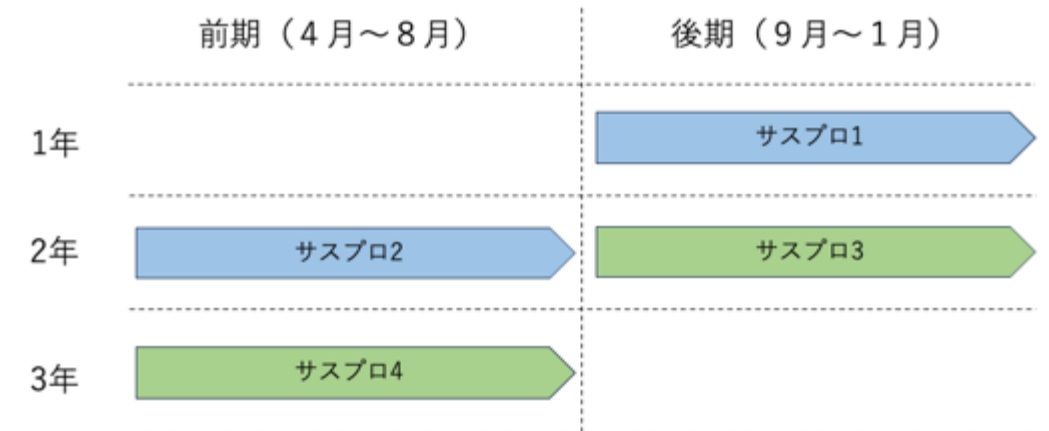
武蔵野大学が行う サステナビリティプロジェクトについて

- サステナビリティ学科のミッション：環境・社会問題を解決し、サステナブルな社会を実現できる人を育てる
- サステナビリティプロジェクト：サステナビリティに関する社会課題解決をめざして、実践や研究に取り組むプロジェクト型の授業



ラボと活動スケジュール

- 活動コンセプトを掲げるラボでプロジェクトを実施
- 1年を1クールとして成果を出す
- 毎週月曜日の1～4限が活動時間
(別日の活動可)
- 基本的に1年間でラボを移動 (より深く探究する場合には継続もあり得る)





橋本ラボの主なテーマ

1. 水を活かしたコミュニティづくり
2. 小さな自然再生、小さな水インフラづくりを通じたコミュニティづくり
3. 体験・体感型の環境教育プログラムの開発と実施

インプット期

(2023年9月～2024年1月)

プロジェクト開始時に予測した茂林寺沼での活動 (4、5回程度の調査を予定)

①茂林寺沼の調査

- ・水質調査や改善活動
- ・気候変動による沼への影響
- ・貯水能力(防災面の沼のポテンシャル) など

②地元の方へのヒアリング&現場調査

- ・茂林寺沼自然学習会への参加

③「里沼」を活かした企画立案

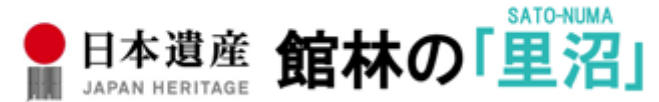
- ・プロジェクトWETを活用した参加型の環境教育

ラボ開始時の年間計画

9月	10月	11月	12月	1月
<ul style="list-style-type: none">ラボ配属決定活動ガイダンス企画の立案インプット	<ul style="list-style-type: none">インプット館林市職員によるレクチャー	<ul style="list-style-type: none">インプットフィールドワーク①プロジェクト計画	<ul style="list-style-type: none">インプットフィールドワーク②プロジェクト計画	<ul style="list-style-type: none">プロジェクト計画中間発表
4月	5月	6月	7月	
<ul style="list-style-type: none">活動の実施	<ul style="list-style-type: none">活動の実施フィールドワーク③	<ul style="list-style-type: none">活動の実フィールドワーク④	<ul style="list-style-type: none">まとめ最終発表	

館林市職員による レクチャー

- 1 里沼について
- 2 里沼の環境役割
- 3 里沼での取り組み 茂林寺沼
- 4 里沼の見どころ
- 5 学生のみなさんに期待すること



2023.10.16(月) 武蔵野大学サステナビリティラボPJ
【R5年度日本遺産「里沼」事業】

館林市教育委員会文化振興課日本遺産推進係
岩瀬 宇

1



①茂林寺沼の調査

- ・動物プランクトンによる水質調査
- ・気候変動による沼への影響
- ・貯水能力(防災面の沼のポテンシャル)など

②活動者からのヒアリング&現場調査

- ・県立大泉高校(ヨシストロー作製・キクラゲ栽培)
- ・渡良瀬くらぶ(ヨシ工作・ヨシ堆肥)など

③「里沼」を活かした企画立案

- ・「里沼」を通したひとづくり、事業持続性など

38

第1回フィールドワーク

11月18日（土）

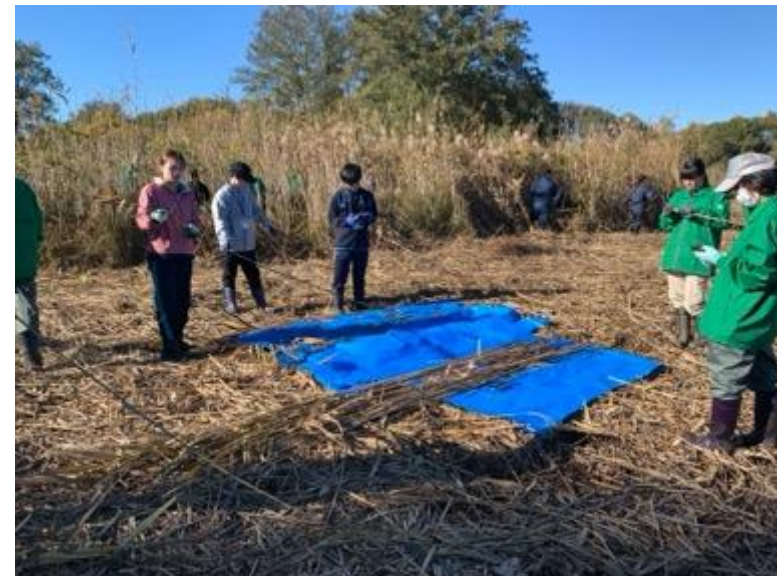
時間	内容(場所)
12:00	集合(館林駅)
12:00-12:10	移動(城沼・つつじが岡公園)
12:10-13:00	昼食(シュガーヒルカフェ)
13:00-13:30	オリエンテーション・全体概要共有(シュガーヒルカフェ)
13:30-14:30	守りの沼・城沼エリア(つつじ映像学習館&城沼)
14:30-14:50	移動(茂林寺沼)
14:50-15:40	祈りの沼・茂林寺沼エリア(イベント視察等)
15:40-16:00	移動(多々良沼)
16:00-17:00	実りの沼・多々良沼エリア(ハクチョウ・夕陽・用水堀等)
17:00-17:15	移動(館林ステーションホテル)
17:30	チェックイン
18:30	懇談会・振り返り(※吉川(館林市本町二丁目6-3))
20:00	解散・自由



第1回フィールドワーク

11月19日 (日)

時間	内容(場所)
8:20	集合(館林ステーションホテル)
08:20-08:35	移動(茂林寺沼)
08:35-09:00	ミーティング(青木雅夫先生・大泉高校)
09:00-12:00	茂林寺沼湿原生物調査研究会
12:00-13:00	昼食(茂林寺沼)*各人用意
13:00-13:30	準備(大泉高校ヨシ刈取)
13:30-15:30	茂林寺沼湿原ヨシ刈取
15:30-16:00	移動(館林駅)
16:00	解散(館林駅)



学生の興味（第1回フィールドワーク時）

- ヨシ関連の取り組み（新たな使い道を探す） 2名
- 茂林寺動物プランクトンによる水質調査 2名
- 茂林寺沼の防災機能の調査
- 里沼と食文化を通したまちづくり
- 里沼の特産品や文化を生かして催しものをおこなう
- 沼のイメージをプラスにするための環境教育
- 茂林寺沼の生態系調査
- 大泉高校生が栽培したキクラゲの新たな活用法

第2回フィールドワーク

12月16日（土）

時間	内容(場所)
12:00	集合(館林駅東口ロータリー)
12:00- 12:30	移動(群馬県立大泉高校)
13:00- 17:00	ヨシストロー作製・活動ヒアリング(大泉高校)
17:00- 17:30	移動(館林グランドホテル)
17:30	チェックイン
18:30	懇談会・ラボメンバーによるプレゼン、振り返り(吉川)
20:00	解散

12月17日（日）

時間	内容(場所)
08:20	集合(館林グランドホテルロビー)
08:20- 08:35	移動(茂林寺沼)
08:35- 09:00	あいさつ(青木雅夫氏・大泉高校)
09:00- 12:00	茂林寺沼湿原生物調査研究会
12:00- 13:00	昼食、解散

学生の興味（第2回フィールドワーク時）

- ヨシ関連の取り組み
 - 新たな使い道を探す
 - 中学校や高校で使えるヨシ製品の開発（子どもたちが家で親に話し、家庭内で広まることに繋がる）
- 麦都である館林の特産品を活用したイベントやエコ・ツーリズム
- 茂林寺沼の生態系調査
- 地元の人々の里沼について意識調査
- 里沼での国際的なイベント
- 沼のイメージをプラスにするための環境教育

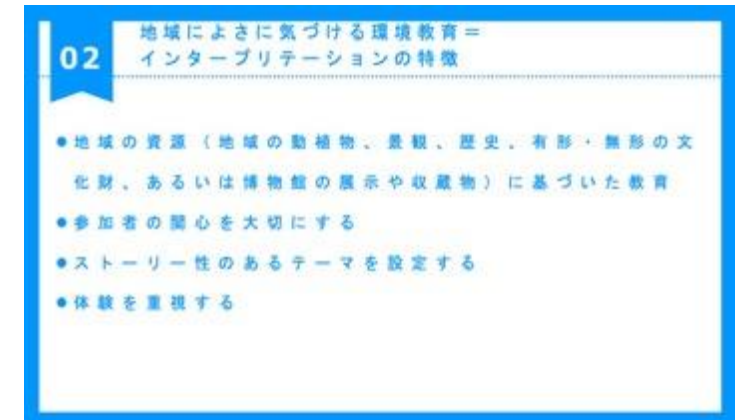
中間発表：プロジェクトの方向性の決定



里沼について館林市以外の人に知ってもらうため、エコツーリズムを実施する。エコツーリズムとは、地域の環境や文化の保全のため、旅行者にそのすばらしさに触れたり体験したりしてもらう旅行形態。2名（他のプロジェクトを統合した形で実施することを模索）



低地湿原は人の手が加わることで低層湿原の状態が保たれる稀有な湿原。湿原の水質浄化に効果のあるヨシの活用を模索。3名（7月までにできることを模索するが、やれることが少ないと気づく）



地域の資源に基づき、参加者の関心を大切にし、体験を重視する教育を実施する。1名

（普及啓発活動をエコツーリズムといっしょに行いたい意向）

プロジェクト準備期

2024年4月～6月

サステナブル ツーリズムとは (UNEP and UNWTO,2005)

生態学的プロセスを維持し、生物多様性と自然遺産を保全しながら、観光開発にとって重要な要素である環境資源を最適な方法で利用します。

ホストコミュニティの社会文化的な本質に敬意を払い、彼らの有形、無形文化財と伝統的価値を保全し、異文化間の理解と寛容醸成に貢献します。

安定した雇用の収入機会の創出、ホストコミュニティへの社会福祉といった社会経済的な利益がすべてステークホルダーに公平にもたらされ、貧困削減にも貢献することで、長期的に発展可能な経済活動を確保します。(UNEP and UNWTO,2005)

サステナブルツーリズムの基本要素

- 長期的利益の担保
- 地域の繁栄
- 利益の公正な分配
- 就業機会の創出
- 観光客満足

経済的に
成長できる

社会文化的に
好ましい

環境的に
適正である

- 伝統、文化の保全
- 地域コミュニティの幸福創出
- 地域住民参加
- 雇用の質
- 人権尊重と社会平等（障害者、マイノリティ、社会的弱者への配慮）
- ユニバーサルデザイン
- 犯罪防止

- 地域的環境問題の削減（騒音、ゴミ問題、その他）
- 地球環境の保全（気候変動、生物多様性の損失）
- 景観保全
- 資源の過剰利用回避
- 環境汚染の回避
- 持続可能な消費と生産

本当のサステナブルツーリズム

※独自の解釈で3要素のいずれかを偏重しているケースが多い

有限な地球を大切にした サステナブルツーリズムの実践

低炭素型の 観光

- ①エネルギー使用量を減らす
- ②エネルギー効率を上げる
- ③再生エネルギーの使用を増やす
- ④温室効果ガスを回収する

自然共生型の 観光

- ①生物多様性に悪影響を及ぼす活動、製品は避ける
- ②観光活動による生物多様性への影響を最小限にする
- ③生物多様性の保全に積極的に貢献する

節水と 排水管理

- ①直接的な水の需要、使用を減らす
- ②汚水と排水の再利用を促進する
- ③適切な排水管理による環境汚染防止
- ④バーチャルウォーターなどの間接的な水の消費を削減する

持続可能な 消費と生産

- ①グリーン購入（買う必要があるかを考える、買うときには環境に配慮したものを選ぶ、長く使えるものを選ぶ、ゴミがでないものを選ぶ）
- ②持続可能性に配慮した原材料・物品の調達
- ③3Rの徹底と適正な廃棄物処理
- ④有機化学物質の排除

4月から7月までの予定

4月 学び

- サステナブルツーリズムの知識を得る
- サステナブルツーリズムの技術（インタープリテーション）を身につける
- サステナブルツーリズムの先進地での体験

5月 準備

- ミニサステナブルツーリズムの実践
- 館林視察と打ち合わせ
- 企画立案
- 参加者募集

6月 実施

- サステナブルツーリズムの実践
- アンケート調査
- アンケート集計

7月 提案と報告

- 提案書の作成
- ポスターの作成
- 発表会（7月29日
／武蔵野大学5号館
1F）

先進地域のヒアリング

実施日：4月30日

対象：飯能市エコツーリズム担当村中様



1) なぜエコツーリズムを計画したか？

- 毎年260万人の観光客が訪れるが、遠足やハイキング、川遊びで訪れる観光客の多くが、ゴミ投棄などで自然に負荷を与える。
- 地域や住民とほとんど関わりを持つことなく帰ってしまう。
- 主に丘陵地が開発され、動植物の生息地・生育地の消失が進んだ。
- 地域の個性と魅力の源である自然を保全し、人と自然に育まれてきた文化を継承しながら、これらを有効した。
- 地域の活力につなげていきたい。

2) 年間でどのくらいの人に参加するか？ 市外、市内の参加者の割合はどれくらいか？

- 令和5年度は年間4000人が参加。8割が市外（東京、埼玉、栃木、群馬が多い）、2割が市内からの参加。



先進地域のヒアリング

実施日：4月30日

対象：飯能市エコツーリズム担当村中様



3) 実施者の意見で印象的だったことがあれば教えてほしい。

- 実施者があたりまえだと感じていることが、参加者に好評だったりする。地域の魅力を地元の人には意外とわかっていない。

4) エコツーリズムで重要と考えていることは何か？

- 環境保全、観光、地域振興、環境教育の4つを重視。そのなかでも環境保全と環境教育を重要視し外来種の駆除体験なども行う。
- 価格設定が大事。安過ぎると続けていくことが難しい。

5) リピート率はどれくらいか？

- リピート率50%。移住した人はいるがエコツーリズムだけが理由とは限らない。移住を考える人のきっかけになっている。

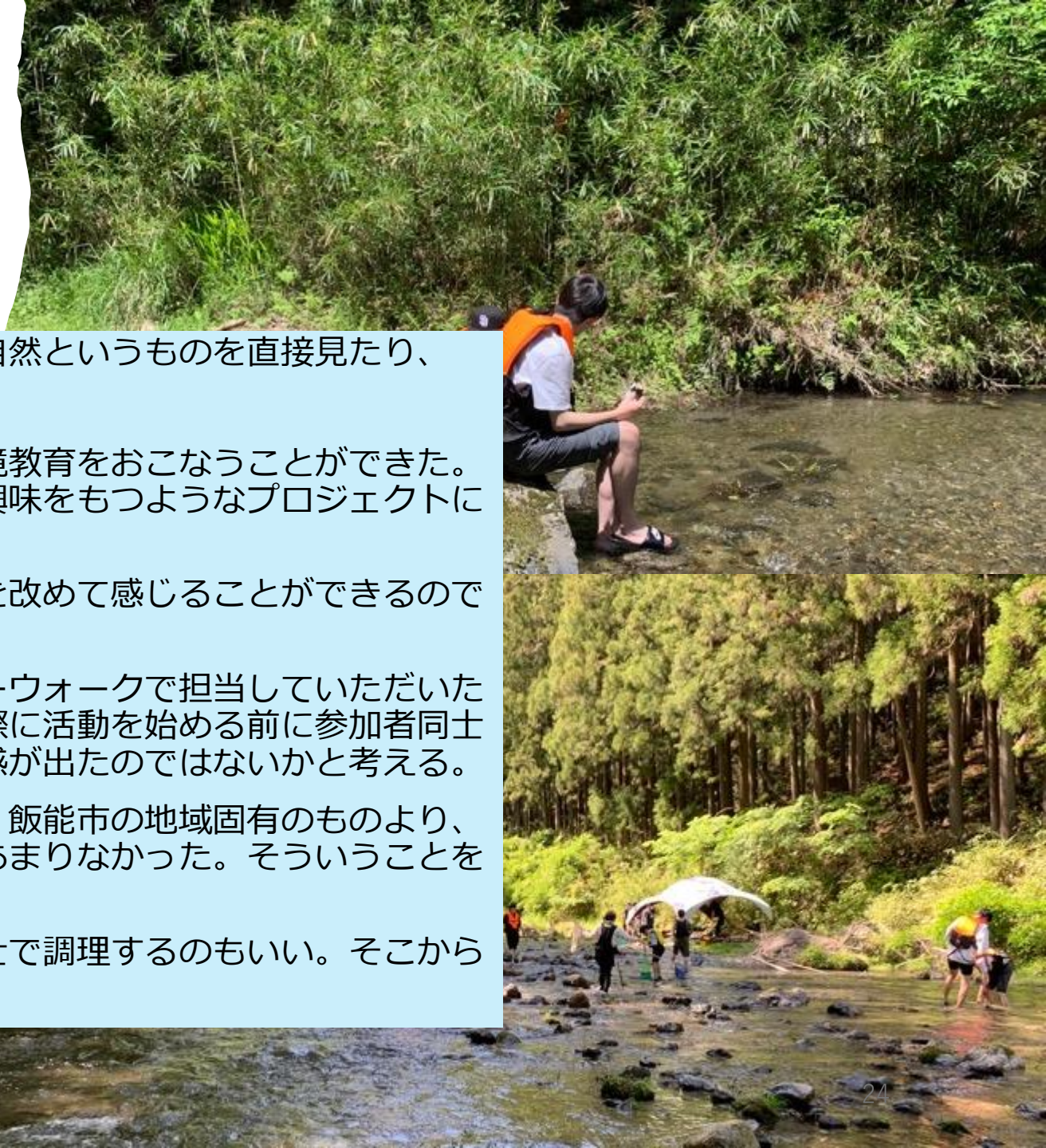


先進地域視察：飯能市エコツアー体験

5月11日（土）11:00-14:30

「川は遊びや生きものの学び場-名栗川リバーウォッチング-」はどのような考え方にもとづいて実施されていたか？

- 飯能市の雄大な自然を楽しみながら、その場所の生物や自然というものを直接見たり、触ったりして学ぶことができた。
- 参加者に最大限楽しんでほしいという思いが伝わった。
- 子供が興味をもてるアクティビティを通じて、自然に環境教育をおこなうことができた。
- 参加した人の自己紹介から他の地域から来た人が多く、興味をもつようなプロジェクトになっていた。
- 参加者同士の交流があれば、ほかの地域との違いや良さを改めて感じることはできないか。
- 参加者同士の一体感が少なかったと感じる一方で、リバーウォークで担当していただいた人は参加者一人一人に気を配っている印象を受けた。実際に活動が始める前に参加者同士で交流してからプログラムを進めたりしたらさらに一体感が出たのではないかと考える。
- 観光と環境保護を兼ねそなえている、飯能市の川の観光、飯能市の地域固有のものより、川のことを中心で、資源を保全する取り組みについてはあまりなかった。そういうことを説明できれば、よりよいエコツーリズムになるのか。
- 昼食が各自だったため、地元の食材を使用して参加者同士で調理するのもいい。そこからコミュニケーションや繋がりが生まれるのではないか？





考察：館林の「里沼」でのサステナブルツーリズムを行ううえで大切にしたいこと

- ▶ 楽しく自然環境とふれあえる
- ▶ 初対面でも参加者同士が仲良くなれる
- ▶ そこでしかできない、そこでやることに価値があることをやる
- ▶ 参加者にリピートしてもらえる
- ▶ 地域の魅力を知ってもらう
- ▶ 幅広い世代に楽しんでもらう

プロジェクトの計画

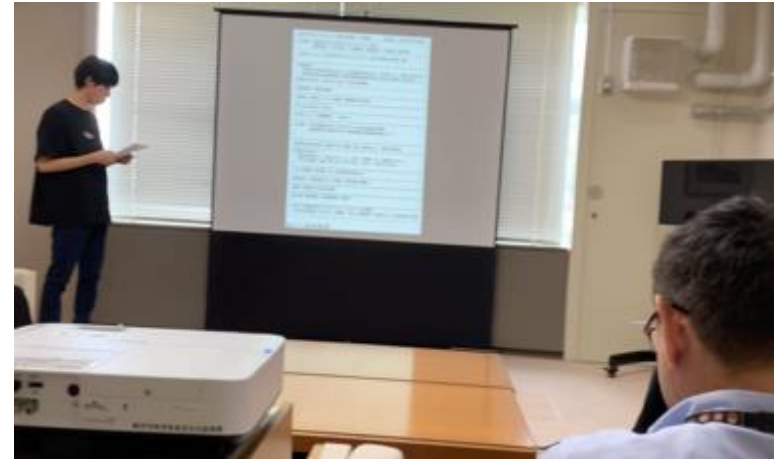
6月30日、サステナブルツーリズム 館林の「里沼」 実施に向けて

実証と館林様への企画提案

5月25日 企画の予行演習



5月26日 館林市様への提案



いただいた意見を
反映した最終の企画書を作成



サステナブルツアー実施計画書

「サステナブルツアー 2024 館林の里沼」 (2024年6月24日版)

主催：武蔵野大学工学部サステナビリティ学科サステナブルツアープロジェクト

(メンバー：稲嶺璃音、小林柊羽、小林勇登、佐藤葉月、高井翼、高井凜)

共催：群馬県館林市役所日本遺産プロジェクト

サステナブルツーリズムをこう考えました

従来のツーリズム (マスツーリズム)

- ① 交通の発展などで、世代を問わず旅行が身近に。多くの人（参加者・受け入れ側）が携わり、雇用拡大、消費拡大に寄与した。（**経済的にプラス**）
- ② ゴミ問題、騒音問題、環境汚染、自然破壊など地域環境に負荷をかけるケースもあった。（**環境に負荷**）
- ③ 地域住民との関わりはほとんどなかったり、地元を負荷をかけるケースもあった。（**地域理解に欠ける**）

私たちが目指す サステナブルツーリズム

- ① 小規模だが、自然との触れ合いや、地域の人との交流を通じ、本当の豊かさに気づける旅を提供する。（**経済的に小規模だが持続性がある**）
- ② 地域の魅力ある自然を活動を通して保全し、人と自然に育まれてきた文化を理解する。（**環境を理解して守る**）
- ③ 地域の人と交流しながらその土地の本物を体験し、参加者の感動と地域の元気につなげる。（**地域を尊重する**）

里沼の貴重な資源を守るための具体的な行動

※赤文字は今回実施したいこと

低炭素型の 観光

- ①エネルギー使用量を減らす
→公共交通の利用をメインに、
自動車は極力使用しない
- ②エネルギー効率を上げる
- ③再生エネルギーの使用を増やす
- ④温室効果ガスを回収する

自然共生型の 観光

- ①生物多様性に悪影響を及ぼす活動、製品は避ける
- ②観光活動による生物多様性への影響を最小限にする→茂林寺沼を散策し里沼、希少な生物を観察する
- ③生物多様性の保全に積極的に貢献する→里沼を壊してしまう外来生物の理解や駆除

節水と 排水管理

- ①直接的な水の需要、使用を減らす→水道水を無駄にしない
- ②汚水と排水の再利用を促進する→うどん汁で皿を洗う
- ③適切な排水管理による環境汚染防止→うどん汁などの適切な使用
- ④バーチャルウォーターなどの間接的な水の消費を削減する→地元の食材を選ぶ

持続可能な 消費と生産

- ①グリーン購入（買う必要があるかを考える、買うときには環境に配慮したものを選ぶ、長く使えるものを選ぶ、ゴミがでないものを選ぶ）
- ②持続可能性に配慮した原材料・物品の調達
- ③3Rの徹底と適正な廃棄物処理→ゴミを出さない工夫
- ④有機化学物質の排除→化学製品を極力使用しない



実施概要

【実施目的】

- ・ 館林の茂林寺沼を中心とした里沼文化を多くの人に気づいてもらう。
- ・ 茂林寺沼の自然環境や文化的価値を五感で楽しみながら感じてもらう。
- ・ 武蔵野大学の学生と館林の人たちとの交流の場をつくる。

【実施予定日時】 2024年6月30日（日）10時30分～15時（集合解散：東武伊勢崎線・茂林寺前駅、晴天と雨天で実施内容を変える）

【実施場所】 茂林寺沼周辺、分福公民館

【対象者】 武蔵野大学生6人程度、地域（館林）の方6人程度（小規模で実施）

【武蔵野大生へのアプローチ】 Microsoft Teamsの学科チームを活用（広報開始6月3日、締切6月17日）

【ツアーの評価】 ツアーについてヒアリング。評価方法（①再参加の意思、②里沼への理解、③地域への理解、④支払い意思額）

参加者の募集や情報提供

【募集方法】 Microsoft Teams「環プロサステナ」（学科チーム）での発信文】

- 私たちは、ラボの活動で6月30日に群馬県の館林市にてサステナブルツーリズムを実施します。このツアーでは、アクティビティを通して東京ではあまり感じることのできない自然との交流や、手打ちうどん体験などを計画しています。参加希望の方はGoogleフォームから申し込んでください。

【参加者に伝える情報】

- 実施予定日時 2024年6月30日（日）10時30分～14時30分
- 集合解散場所：東武伊勢崎線・茂林寺前駅
- 用意するもの：動きやすい服装(長袖、長ズボン)、履き慣れた靴、帽子、軍手、タオル、水筒など飲み物、雨具、エプロン
- NabiTabi (<https://navitabi.co.jp/>) というアプリをインストールする
- 緊急連絡先

準備物（購入するもの）

【参加者への配布物】

- 1日のながれ
- ワークショップ「色合わせ」のシート
- 名札

【茂林寺沼のアクティビティ】

- 保険：大学加入の保険で対応。
- 熱中症対策：経口補水液、スポーツドリンク
- 虫対策：虫除けスプレー

【うどん体験】（20人前）

- 百年小麦
- めんつゆ（正田醤油）
- キクラゲ
- 植物油
- 天ぷら粉
- キューリ（地場産）
- トマト（地場産）
- うどんのつくり方の説明書

【交流】

- ワークショップ「紫VS黄色」の道具
- マーカー



6月29日（前日）の計画

13:00 館林駅集合 → 買い物

13:30 茂林寺沼で予行演習

14:30 分福公民館にてうどん準備
ワークショップの練習

17:00 翌日の確認

17:30 ホテルへ移動



キクラゲ天ぷらうどん



冷やしたぬきうどん



当日の計画（晴天時）

- 8:30 ホテルロビー集合
- 9:00 分福公民館集合（全員）
うどん準備（璃音、柊羽、勇登、翼）
天ぷら、冷やしたぬき準備（葉月、凜）
- 10:30 参加者受付（茂林寺駅前到着 10時24分）※遅刻者対応
主催者あいさつ（凜、璃音）
茂林寺沼まで徒歩で移動（状況見て車）
概要説明（凜、璃音「1日のながれ」を配布）
- 10:40 アイスブレイク、参加者同士の自己紹介（柊羽、葉月）
- 10:55 アクティビティ①NaviTabi（凜、璃音）
- 11:25 カキツバタソーダ&ヨシストローでティーブレイク（凜、璃音 関東学園の方に説明をお願いします）
- 11:40 アクティビティ②色合わせ（担当：柊羽、葉月）
- 12:00 分福公民館へ車で移動※橋本車
- 12:10 うどん作り体験（説明：凜、璃音）
（のぼす、切る、ゆでる、冷やしたぬきうどん、きくらげ天ぷらうどんのトッピング）
- 12:50 グループに分かれて食事
- 13:15 アクティビティ Violet&Yellow（勇登、翼）
- 13:40 全員で感想を共有、アンケートのお願い、あいさつ（凜、璃音）
- 14:05 茂林寺前駅へ移動※橋本車（茂林寺駅前出発 14時21分）
- 14:20 参加者解散（凜、璃音）
- 14:30 片付け（全員）
- 15:00 ふりかえり
- 15:30 解散



当日の計画（雨天時）

- 8:30 ホテルロビー集合
- 9:00 分福公民館集合（全員）
うどん準備（璃音、柊羽、勇登、翼）
天ぷら、冷やしたぬき準備（葉月、凜）
- 10:30 参加者受付（茂林寺駅前到着 10時24分）※遅刻者対応
主催者あいさつ（凜、璃音）
茂林寺沼まで徒歩で移動（状況見て車）
概要説明（凜、璃音「1日のながれ」を配布）
- 10:40 参加者同士の自己紹介（柊羽、葉月）
- 10:50 アクティビティ①NaviTabi（凜、璃音）
- 11:10 分福公民館へ車で移動※橋本車
- 11:20 うどん作り体験（説明：凜、璃音）
（こねる）
- 11:50 アイスブレイク（柊羽、葉月）
アクティビティ Violet&Yellow（勇登、翼）
- 12:20 うどん作り体験（説明：凜、璃音）
（ねかす、のぼす、切る、ゆでる、冷やしたぬきうどん、きく
らげ天ぷらうどんのトッピング）
- 13:00 グループに分かれて食事
- 13:20 カキツバタソーダ&ヨシストロー（凜、璃音 関東学園
の方に説明をお願いします）
- 全員(参加者、地域の方、主催者)で感想を共有（凜、璃音）
アンケートのお願い、あいさつ（凜、璃音）
- 14:05 茂林寺前駅へ移動※橋本車（茂林寺駅前出発 14時21
分）
- 14:20 参加者解散（凜、璃音）
- 14:30 片付け（全員）
- 15:00 ふりかえり（全員）
- 15:30 解散

プロジェクトの実施

実施日：2024年6月30日

ツアー参加者：6人（武蔵野大学生5人、社会人1人）

地域の方の参加：12人（館林市役所4人、大泉高校8人）

※動画をご参照ください

参加者へのアンケート

	事前	事後
群馬県館林市に行ったことがありますか？	ない 6名	ある 6名
日本遺産「里沼」を知っていますか？	知らない 6名	知っている 6名
里沼とは何かを理解していますか？	理解していない 6名	理解している 6名
このツアーにいくら支払ってもよいと思いますか？ (交通費は除きます)		0～1000円 0名 1001円～3000円 4名 3001円～5000円 2名

サステナブルツアーの評価

＜大切にしたいこと＞	評価	＜具体的な行動＞	評価
楽しく自然とふれあえる	○	公共交通の利用をメインに、自動車は極力使用しない	○
参加者と地域人が交流できる	○	茂林寺沼を散策し里沼、希少な生物を観察する	○
地域の魅力を知ってもらう	○	里沼を壊してしまう外来生物の理解や駆除	○
そこでしかできない、そこでやることに価値があることをやる	○	水道水を無駄にしない	○
幅広い世代に楽しんでもらう	△	うどん汁などの適切な使用	○
参加者にリピートしてもらう	不明	地元の食材を選ぶ	○
		ゴミを出さない工夫	○
		化学製品を極力使用しない	○



約20人参加で
ゴミは3.8kg

年間の活動評価

7月29日 プロジェクト公開発表会

オーディエンス賞2位

教員から「プロジェクトとは構想を実践、実装した成果を発表するもので、理念をもっとも体現していたのはサステナブルツーリズムチーム」との評価を得る。



プロジェクトを終えた学生の声

	ラボ活動を通じて考えたこと	現在の問いや今後の活動について
HSさん	<p>昨年度から今年の約1年間の活動のなかで、群馬県館林市にある日本遺産である3つの沼（茂林寺沼、城沼、多々良沼）通称「里沼」をフィールドとしたサステナブルツーリズムを企画し、運営・実行した。このサステナブルツーリズムでは、里沼の認知度向上や里沼の魅力を知ってもらう、自然環境や文化的価値を五感で感じてもらうことを目的として実施した。従来のツーリズムでは、経済的利益、雇用拡大、消費拡大を重視する傾向にあり、ゴミ問題や騒音問題などの環境問題が発生し、地域環境に負荷をかけるケースがあった。しかし、今回実施したサステナブルツーリズムは環境（地域的環境問題の削減や資源の過剰利用回避等）・経済（長期的利益の担保や地域繁栄等）・社会文化（地域の伝統、文化の保全や地域住民の参加等）の3分野のバランスがとれていて、小規模ながらも自然との触れ合いや地域の人々との交流、地産地消、人と自然に育まれてきた文化や地域価値の伝承ができる。ここから、今回は低炭素型の観光、自然共生型の観光、節水と排水管理、持続可能な消費と生産の4つのテーマを掲げて目標を設定した。特に、持続可能な消費と生産という面では、今回のツアーを通してのゴミの発生をできる限り抑制することができた。今後ツアー回数を重ねるごとにどこの部分で環境負荷を低減させることができるかやゴミの排出を抑制できるかわかると思う。</p> <p>私がこのツアーを通して印象に残った言葉として、普段見ることのできない生徒の笑顔を見ることができた、ヨシを間接的に食べているという言葉である。ヨシは茂林寺沼湿原に生息する植物である。ツアーではヨシから作られたヨシストローを使用し、ヨシの廃材を培地として再利用し作られたキクラゲを使用した。キクラゲを食べることによって、ヨシを間接的に食べることになるため、食べるという行為からなにか自分のなかで環境に対する興味や関心が生まれるとよいと思った。そのため、今後のツアーではこのような観点を重要視して企画したいと考える。今後の展開として、正式に館林市で採用していただけるような完成度へと近づけていき、より多くの人々に参加していただき楽しんでもらえるようなツアーにしていきたいと考える。</p> <p>後期に行われる大学祭では、プロジェクトWETを活用した環境教育を提供する場があるため、ゲームを通して環境に興味や関心をもてるような糸口を一つでも多く増やしたい。自分で理解していても、初めてゲームを行う人や環境について知識がない人がやる場合の言葉の使い方や情報の提供の仕方を考え工夫する必要があるため、環境教育を行う機会も後期の活動で増やして力をつけていきたいと考える。以上の上記の理由からサスプロ3・4でも橋本ラボを継続し、活動をしたい。</p>	<p>従来のツーリズムでは、経済、環境、社会文化3つの要素の何かが欠けていたり、経済的利益だけを追求するなどの偏りが見られていた。持続可能な観光の実現を目指して、経済、環境、社会文化の3つの要素を適切に保つために、ツアーを行うにあたって何が必要で逆に何が損なわれるとこのバランスが崩れてしまうのか明確にする必要であると考えている。そのために、ツアーを1回で終わらせるのではなくツアーを繰り返し行う中で見だしていきたい。</p>

プロジェクトを終えた学生の声

	ラボ活動を通じて考えたこと	現在の問いや今後の活動について
TTさん	<p>約一年間ラボで活動してきて、館林市の方々と、また多くの方々とともにプロジェクトを進めてきました。私たちが行ってきたのは、サステナブルツーリズムプロジェクトであり、エコツーリズムとはどういうものなのかという観点から実際にエコツーリズムに参加して見たり、また、プロジェクトWETと呼ばれる水の環境教育に関する資格を取りました。次のサスプロ3・4でもこれらの長期間かけて培ってきた知識や経験をもとにさらなるプロジェクトを進めていきたい気持ちでいっぱいです。</p> <p>また、11月にある黎明祭にてプロジェクトの先輩である3年生の方々と水環境プロジェクトに関する出展を予定しており、それもまた、今回プロジェクトを続行したいと、しなければならない理由です。</p>	<p>橋本ラボの主なテーマは水環境であります。これまでの一年間でおこなってきた群馬県館林市でのサステナブルツーリズムプロジェクトですが、エコツーリズムに実際に体験しに行ったりという中で、最終的に自分たちで形にするところまでやりきることができました。そして今後に向けてのプロジェクトとしては、やはりここまで続けてきたサステナブルツーリズムプロジェクトを館林市の方々と今後も続けることができるのであれば続けていきたい思いはとても強いです。今後やっていきたいこととしては、まずはプロジェクトを実際に事業として市に取り入れていただけるようなクオリティにすることというのは一つの目標であります。</p> <p>また、ビオトープなどにも強く関心があり、こうした橋本ラボでしかできない水に関するサステナブルに取り組んでいきたい気持ちが強いです。</p> <p>こうして様々な水に関するサステナブルについて追及していきたいです。</p>

プロジェクトを終えた学生の声

	ラボ活動を通じて考えたこと	現在の問いや今後の活動について
RTさん	<p>去年の後期から今年の前期にかけて群馬県館林市をフィールドとしてサステナブルツーリズムを企画、実施しました。何度も現地を視察し、その土地に適したアクティビティを含めたツアーを自分たちで考え、実施できたことは自分のなかで大きな成果として自信につながりました。残念ながらオープンフォーラムでの受賞は叶いませんでしたが、今後の展開としては、ツアーを実施したことによる課題点を改善し、館林市で正式にサステナブルツアーとして取り入れていただけるように試行錯誤していきたいと考えています。また、すでに黎明祭で同じラボの先輩方と環境教育に関するアクティビティを実施する予定です。去年プロジェクトWETを取得し、それを活かすチャンスなためぜひ今後も橋本ゼミで活動していきたいと考えています。</p>	<p>SDGs 17の目標についてのほとんどが水に関わると考えています。水について普段あまり意識することは多くはないと思いますが、私たちの暮らしにとってなくてはならないものです。海や川、湖や沼などの自然に支えられながら気候変動の緩和などのために水の大切さ・ありがたさについて理解する必要があると思います。そのように持続可能な社会に大きな影響をもたらす水についてより多くの方に知ってもらうための環境教育、サステナブルツアーによって地域の新たな魅力に気づいてもらい環境への関心を高めるために何ができるか。具体的な方法を考え、提案するだけでなく、実施・活動を行いたいと考えています。</p>

プロジェクトを終えた学生の声

	ラボ活動を通じて考えたこと	現在の問いや今後の活動について
RIさん	<p>サステナブルプロジェクト1・2では、群馬県館林市の里沼地域を対象とした持続可能な観光モデルであるサステナブルツーリズムの企画・実行に至りました。しかし、今回行ったこのプロジェクトでは、ツーリズム全体の取りまとめ方を始めとする、企画参加者への地域価値・文化の伝達不足など多くの改善点が明らかになりました。また、これらの改善点のほかにもツーリズムを行う人材やスキル不足なども懸念点として挙がりました。試験的な実施という観点から見ると、設定していた目標などを概ね達成できた捉えることができますが、実際に館林市で正式に実施できる完成度には及ばないという考えに至りました。これらを踏まえて、私はこのプロジェクトの課題解決・改善を行い完成度を向上させ、また将来的には館林市以外の地域を対象にした企画も行いたいと考えている橋本ラボを希望します。</p>	<p>今回私が志望する橋本ラボでは、「持続可能な観光」が多くの地域で行われている社会の実現を目標にしたいと考えています。そのためには、地域の住民や参加する人々が、持続可能な観光に対してどのような考えを持っているのか、どのようなことを求めているのか等、対象とする地域に寄り添った問いを立てる必要があります。そして、この設定した問いを基にサステナブルプロジェクト1・2で館林市にて行われた企画のクオリティの向上に取り組むとともに、他の地域を対象にしたツーリズムの思索も行っていきたいと考えています。</p>

プロジェクトを終えた学生の声

	ラボ活動を通じて考えたこと	現在の問いや今後の活動について
HKさん	<p>1年の後期から2年の前期までの約1年間行ってきた館林でのサステナビリティツーリズムを正式に市で取り組むことを目的としてきていたが、それを今回は達成することができなかった。なのでもう1年活動を通して更に進化させたサステナビリティツーリズムを実現させたいと考えている。実際に今回、ツアーをやってみた改善点として、地域に対しての知識不足、段取りが悪く若干グダッてしまう場面もあった。具体的には、参加者に対してその地域の特色であったり、沼に生えている植生など詳しく伝えるために更にその地域を周り知識を得ることが大事になってくる。また、プロジェクトwetを使ったアクティビティを行ったが、これを行うことによって普段あまり表情を見せない人が笑顔になったり、楽しく環境教育について学ぶことができるというところを1参加者として、また企画者としても感じる事ができた。この経験を活かして、11月にある黎明祭で実際に自分たちで企画してプロジェクトwetを行うことも決まっている。今後は普段環境教育にあまり触れていない人たちにも楽しく学べるような環境も作っていきたいと考えている。去年よりも一段階規模を上げつつまた一步ステップアップしていきたい。</p>	<p>現在のエコツーリズムは経済的利益、雇用拡大、消費拡大などを重視しており、環境汚染やゴミ問題などといった環境問題が起こっているという現状があるためエコとは言いがた現状があるなので、経済的視点だけではなく、環境的な視点などを含め、地域住民だけでなく、市外や海外の人も参加したくなるようなより持続可能なツアーを計画しそれを実現させていきたい</p>

プロジェクトを終えた学生の声

	ラボ活動を通じて考えたこと	現在の問いや今後の活動について
SKさん	<p>自分はサスプロ1.2では橋本ラボで活動させていただきました。活動は主に群馬県の館林というところにフィールドワークを通してその地域にある沼の調査を行い沼の濁水の原因となっているヨシをどうにかして飼って、その後いかに低コストで処理を行えるだろうと考えラボの活動をしてきました。最初はお先真っ暗な状態でしたが橋本先生のお力を借りながらどうにか館林舞台に自分たちでエコツーリズムを主催することができました。最終発表のポスタセッションが近づくにつれ自分たちの活動をいかに簡潔で皆んなさんお届けできるかと考えてポスターを制作しました。ですが、発表後の企業の方からの質問でDMOに基づいて考えて取り組んできたの??と問われた際にDMOとは何かすら分からずメンバー全員が呆然としてしまいました。そして、呆れられた表情を浮かべながら立ち去っていかれました。この時自分はただ自分たちが満足しているだけでなく社会の中でどんな指標に基づいて活動してるのかを知った上で今の活動を良いものにして来年リベンジしたいと思いました。以上が同じラボを希望する理由になります。</p>	<p>持続可能なエコツーリズムを行いたいと思います。まず、今回のような日帰りのエコツーリズムではなく2泊3日のような形態で次回を行います。そして、ツアーを行う前にこのツアーの目的を参加者にも知ってもらいより一体感を持たせて一緒に取り組んでもらう。エコツーリズムを通してその市、街は豊かになり住民の親密が上がりその市、街での環境問題解決への意識は向上するのか??と問いを立てます。</p>

Thank you

1年間大変お世話になりました